

国語プリント No. ()

年 組 番 名前

配布日 月 日 曜

「じじろ」4 私の決断

私は策略によってKを打ち負かしたに思えたが、Kの不思議な言動により、私は「最後の決断」をしなければならぬと考える。Kの言動の真意はどこにあるのか、どうして私は「最後の決断」をしなければならないのか、Kの自殺の原因を探るためにはこの点をしっかりと読み取る。

K

私

① 146 下 2 「彼には投げ出すことのできないほど尊い過去があったからです。彼はそのため今日まで生きてきたと言ってもいいくらいなのです。」

○「投げる」は「死なない尊い過去」とは？

③ 147 上 9 「私はほどなく穏やかな眠りに落ちました。しかし突然私の名を呼ぶ声で目を覚まし、見た。見ると、間の襖が二尺ばかり開いて、そこにKの黒い影が立っています。そうして彼の部屋には宵のとおりまだ明かりがついているのです。急に世界が変わった私は、少しの間口をきくこともできずに、ぼうつとして、その光景を眺めていました。」

○この時、私の名前は何回ばれたと推測できるか？

a 一〇二回 b 三〇五回
c 六〇十数回

④ 147 上 15 「そのときKはもう寝たのかとききました。」

○「もう」の裏にはどういう思いがあるか？

⑤ 147 下 1 「Kはたいした用でもない、ただもう寝たか、まだ起きているかと思つて、便所へ行つたついでにきいてみただけだと答えました。けれど彼の声は不断よりもかえって落ち着いていくくらいでした。」

○声が落ち着いているということは、Kの精神状態はどのようなと判断できるか？

⑥ 147 下 15 「なぜそんなことをしたのかと尋ねると、別にはっきりした返事もありません。調子の抜けたところになって、ちかごろは熟睡ができるのかとかえって向こうから私に問うのです。私はなんだか変に感じました。」

○「ちかごろは熟睡ができるのか？」の裏にはどういう思いがあるか？

「Kはそうではないと強い調子で言い切りました。昨日上野で『その話はもうやめよう。』と言ったではないかと注意するごとくにも聞こえました。Kはそういう点にかけて鋭い自尊心を持った男なのです。」

○Kがそう言っているという事は……

a 話すつもりであった

b 話すつもりではなかった

② 146 下 16 「上野から帰った晩は、私にとつて比較的安静な夜でした。私はKが部屋へ引き上げたあとを追いかけて、彼の机のそばに座り込みました。そうしてとりとめもない世間話をわざと彼にしむけました。彼は迷惑そうでした。私の目には勝利の色が多少輝いていたでしょう。私の声にはたしかに得意の響きがあったのです。私はしばらくKと一つ火鉢に手をかざしたあと、自分の部屋に帰りました。ほかのことにかけては何をして、も彼に及ばなかった私も、そのときだけは恐るるに足りないという自覚を彼に対して持っていたのです。」

○私とKの優劣関係はどうなっているか？

⑦ 148 上 6 「今朝から昨夕のことが気にかかっている私は、途中でまたKを追究しました。けれどもKはやはり私を満足させるような答えをしません。私はあの事件について何か話すつもりではなかったのかと念を押してみました。」

⑧ 148 上 13 「ふとそこに気のついた私は突然彼の用いた『覚悟』という言葉を連想し出しました。すると今までまるで気にならなかったその二字が妙な力で私の頭を押さえ始めたのです。」

⑨ 148 上 18 「Kの果断に富んだ性格は私によく知れていました。彼のこの事件についての優柔なわけも私にはちゃんとのみ込めていたのです。」
○果断に富む」「優柔」のKの具体的言動心情
 果断に富む
 優柔

○「最後の手段」とは何だと私は考えたのか？
 ○これが「例外」ではなく「果断に富んだ」と結びつくの説明しなさい。

奥さん
 ⑭ 151 上 14 「奥さんは『大丈夫です。本人が不承知のところへ、私があの子をやるはずがありませんから。』と言いました。」
○お嬢さんは本当は誰のことが好きだったのか？
 a 私
 b K
 c 他の誰か

⑮ 152 下 15 「しかし彼はいつものとおり今帰ったのかとは言いませんでした。彼は「病気はもういいのか、医者へでも行ったのか。」とききました。」



⑩ 158 下 1 「つまり私は一般を心得たうえで、例外的場合をしつかり捕まえたつもりで得意だったのです。」
○「一般」「例外」はそれぞれ何を指す？
 一般
 例外

⑪ 148 下 4 「ところが『覚悟』という彼の言葉を、頭の中で何べんも咀嚼しているうちに、私の得意はだんだん色を失って、しまいにはぐらぐら動き始めるようになりまして。私はこの場合もあるいは彼にとって例外でないのかもしれないと思いましたのです。すべての疑惑、煩悶、懊悩を一度に解決する最後の手段を、彼は胸の中に畳み込んでいたのではありませんか？と疑ぐり始めたのです。それは、はっと驚きました。」

⑫ この時の私とKの優劣関係を説明しなさい。

⑬ 149 上 1 「私は私にも最後の決断が必要だという声を心の耳で聞きました。」
○私の決断は何か？

⑭ 150 上 8 「Kがちかごろ何か言いはしなかったかと奥さんにきいてみました。」
○Kが言うとしたら何を言うと思定していたか？

「私はその刹那に、彼の前に手をつけて、謝りたくなったのです。しかも私の受けたそのときの衝動は決して弱いものではなかったのです。もしKと私がたつた二人曠野の真ん中にでも立っていたならば、私はきつと良心の命令に従って、その場で彼に謝罪したろうと思います。」
○この時の私の心情を説明しなさい。

⑮ 153 上 1 「しかし奥には人がいます。私の自然はすぐそこでくい止められてしまったのです。そうして悲しいことに永久に復活しなかったのです。」
○どうして「永久に復活」しなかったのか。



© 「めぞん一刻」 9 巻 高橋留美子 小学館 1985